

発表要旨：

発表テーマ： 心の自然化：一階フレーゲ的表象主義の可能性に基づく考察

発表内容： 心の哲学における「自然主義」と呼ばれる立場の中では表象主義が最も影響があり、かつ多様なアプローチを発展させている。表象主義は、クオリアを表象された外的性質だとする立場の総称である。しかし現時点では、表象主義には未解決の難点が存在しており、それは以下の2点である。表象主義の主張するように、全ての心的状態が志向性を持つ状態であるとし、クオリアを表象された外的性質だと定義すると、(1)異なる外的性質でも同じようなクオリアを引き起こす可能性をうまく説明できない(2)心的状態には意識的状态と無意識的状态があるが、無意識的状态にクオリアがないことをうまく説明できない。本発表では、こうした難点を持つ従来の表象主義を「還元的表象主義」とよび、より柔軟な「非還元的表象主義」を展開し、上記の難点の克服を目指す。

従来の還元的表象主義の代表例は、ラッセル的表象主義である。クオリアを志向性に還元し、またその中にある内容を物理的性質と同一するのはラッセル的表象主義の主な主張である。それに対して、新表象主義の代表例は、フレーゲ的表象主義である。フレーゲ的表象主義は、ラッセル的表象主義と同様にクオリアを志向性に還元しようとしているが、クオリアは「呈示の様態」という主体自体の、本質的な性質と同一しようするある種の非還元的な形態を取っている立場を擁護している。

本発表の目的は、フレーゲ的表象主義のような非還元的表象主義のアプローチを通して、従来のラッセル的表象主義のような還元的表象主義の難点を克服するための試みである。それはまず第一、フレーゲ的表象主義が含まれる「呈示の様態」はクオリアの性質を帰属させると主張しているため、上記の問題(1)に対して、フレーゲ的表象主義なら、異なる呈示の様態から異なるクオリアが発生すると想定できるし、それらを解決できることを本稿で示した。次に第二、Blockのような反表象主義者の指摘に対して、本発表ではフレーゲ的表象主義の主張から反論することが示した。以上のような内容から、本稿はまず表象主義の種別を説明しながら、還元的表象主義と非還元的表象主義の主張について考察をおこなう。次に、非還元的表象主義のアプローチを説明して、そのアプローチの利点を紹介し、反表象主義の批判に反論してみることを中心とし、総括的に議論する。最後は、以上のようなアプローチに対する難点をさらに新たな仕方-現代汎心論の視点から検討する。